

テーマ：

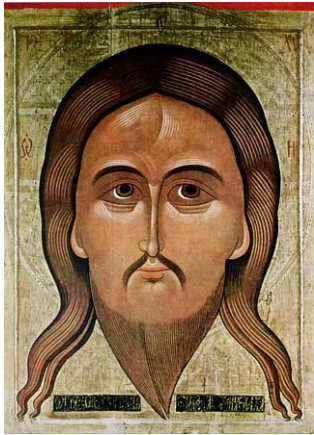
神の法

ザコン ポージィ
Закон Божий

《イコンについて》

Икона（ギリシャ語からロシア語に入った言葉。日本語では「イコン」または「聖像」と訳している）。

Образ（ロシア語で「イコン」を意味する言葉。）。



主の自印聖像

私たちは、聖堂のイコンスタスや壁面に配置されたイコンを目にする。また家庭においての祈祷の場所にイコンを置く。イコンとは、神、または生神女マリヤ、または神使、または聖人の姿を現したものである。イコンは、必ず聖水によって成聖されなければならない。この成聖によって神・聖神^oの恩寵が降り、この時点からイコンはまさに「聖像」となる。この神・聖神^oの力は、病人の癒しなどさまざまな奇蹟の形をもって人々の中に顕れる。

最初のイコンは、主イイスス・ハリストスによって現れた。それは、シリアのエデッサという町を統治していたアウガリという人の病を癒すために、主ハリストスがご自分の顔を手ぬぐいで拭かれ、そのとき手ぬぐいに現われた（うつた）顔である。アウガリ公は、この手ぬぐいに現れた主の顔を前にして祈り、病から癒されることができた。これが世の中に

現れた最初のイコンである。人間の手によって描かれたのではない聖像という意味で「主の自印聖像」と呼ばれる。（※「主の自印聖像」の記憶日は、8月16日（旧暦）／8月29日（新暦）。「主の自印聖像」についての聖伝として、ヴェロニカのハンカチにうつたの主の顔であるという説があるが、正教会の文献からの出典かどうか確認できない。「主の自印聖像」の聖伝についての詳細は、日本語の文献では日本ハリストス正教会教団発行『諸聖略伝八月』を参照されるとよい）。

イコンの前で祈る時大切なことは、目の前に見えるイコンそのものが主ハリストスや生神女マリヤなのではなく、単なる像であるという認識である。従って「イコンに祈る」のではなく、イコンに表れている彼等の像を目にしながらか、「主に祈る」のであり、「生神女マリヤに祈る」のである。このことは聖書と同じである。私たちは聖書という印刷物としての「本」を尊崇しているのではなく、そこに記されている神の啓示や教えを敬虔に読むことによって、自分の思いや霊を神の世界と調和させることができるのである。

聖堂に入ったときは、先ず中央のアナロイの上にあるイコンの前に立ち、二回十字を描き、接吻し、最後に一回十字を描いて軽く頭を下げ、ロウソクを立てる。その後、聖堂内の他の場所にあるイコンの前で祈る。接吻する場所は、描かれている姿の顔の上などは避けるべきである。